


地域活性化伝道師プロフィール

分野	地域産業・イノベーション・農商工連携	◎	農・林・水産業	○	
	地域医療、福祉・介護、教育		観光・交流	○	
	地域コミュニティ・集落再生	○	環境	○	
	地域交通・情報通信		まちづくり	◎	
ふりがな		ふじむら ぼうよう			
氏名		藤村 望洋			
所属	名称	早稲田エコステーション研究所(ぼうさい朝市ネットワーク)			
	役職	代表研究員(全国コーディネーター)			
連絡	住所 (職場)	〒 -			
	連絡先	e-mail	boyoy3[アットマーク]yacht.ocn.ne.jp		
		TEL -	FAX -		
	連絡方法	E-Mailでお願いします			
略歴		(1990年～2012年)			
著作・論文等		著 書:「早稲田発 ゴミが商店街(まち)を元気にした!」(商業界) 編著・共著:「最善は生まれ出ぬこと」(三一書房)／「実践! 容器包装リサイクル法」(日報)／「ゼロエミッションからのまちづくり」(日報)／「eコミュニティが変える日本の未来」(NTT出版)／「地震で人を殺すな」(講談社)等。			
取組概要		<p>災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛人。かつての北前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に見立てた特産品(美味しい救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設営したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(H23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。</p> <p>「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三陸町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三陸町へ救援を行い、第2段階で「福興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスモデル構築を支援している。「福興市」はH23年度「地域づくり大賞」を受賞。H24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸福興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。</p>			

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

	瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。
メッセージ	地域連携の商店街支援「マッチング」 南三陸の店を流されたお蕎麦屋さんの立ち上げを、福井の商店街が「越前手打ちおろしそば」で支援し、長野県下諏訪の商店街が、南三陸の有名だったマドレーヌの復活を支援し、店も家も工場も流された笹蒲鉾屋さんを、鹿児島のだつま揚げ、四国新居浜のじゃこてん、島根県浜田の赤てん、福井県小浜の板蒲鉾等々が支援し、南三陸の水産加工のお店と全国の干物屋さんが連携し、北海道留萌が南三陸の中華料理店に豚ジンギスカンを提供するなど、全国連携による個店と商店街の支援は、地域連携の新しいビジネスモデルを構築して、元気の出た南三陸の志津川商店街は、2月の仮設商店街立ち上げへと進んでいます。みんなが東京や大都市をとの流通や交流をめざすのではなく、地方都市と地方都市を結ぶ新しいビジネスモデルが被災地との連携で構築。
関連ホームページ	NPO法人東京いのちのポータルサイトのHP: http://www.tokyo-portal.info/ 北前船ルート蔵屋敷(ぼうさい朝市)ネットワークのHP: http://www.kitamae.jp
活動エリア	全国

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。